

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	第2回河内長野市図書館協議会
2 開催日時	平成30年10月27日(土) 午前10時から
3 開催場所	河内長野市立市民交流センター(キックス)3階 特別会議室
4 会議の概要	1. 開会 2. 基本的運営の方針の改定について④(検討) 3. 図書館年報について(説明) 4. 図書館利用者アンケート結果について(説明) 5. 「図書館事業評価に係るお知らせ便」(説明) 6. 閉会
5 公開・非公開の別 (理由)	公開 市の図書館行政に対する理解を深めるため。
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 生涯学習部 図書館 電話0721-52-6933
8 その他	

\*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

# 平成30年度第2回図書館協議会会議録

【日時】 平成30年10月27日(土) 午前10時00分～午後12時00分

【場所】 キックス3階 特別会議室

【会議次第】

1. 開会
2. 図書館年報について
3. 図書館利用者アンケート結果について
4. 「図書館事業評価に係るお知らせ便」について
5. 基本的運営の方針の改訂について④(検討)
6. 閉会

【出席者】

(委員) 佐藤敏江会長、今木秀和副会長、  
浅尾千草委員、荒俣洋子委員、西田哲委員、  
溝端秀幸委員、三根ゆみ委員、渡邊史信委員  
(事務局) 橋本生涯学習部長、有村館長、森下参事、  
山本館長補佐(司会)、森田係長、川西副主査(記録)

【傍聴者】 0人

【会議資料】

次第2関係 ○平成30年版 河内長野市立図書館年報

次第3関係 ○河内長野市立図書館アンケート集計結果

次第4関係 ○図書館事業評価に係るお知らせ便(平成30年10月)

次第5関係 ○基本的運営の方針の改定について④(検討)

- ・第2期河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針(案)
- ・第2期河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針(案)に基づく事業計画案
- ・第2期事業評価 数値目標(案)

## 1. 開会(事務局)

事務局職員の紹介、生涯学習部長の橋本です。図書館長の有村です。参事の森下です。企画情報係長の森田です。企画情報係副主査の川西です。館長補佐の山本です。タイムスケジュールは、次第2の図書館年報についてを20分。次第3の図書館利用者アンケート結果についてを20分。次第4の「図書館事業評価に係るお知らせ便」について10分。次第5の基本的運営の方針の改定についてを55分という時間配分で、それぞれご意見を賜り、12時の終了と考えていますので、よろしくお願ひいたします。それでは、図書館長の有村よりあいさつを行います。

有村図書館長のあいさつ

(事務局)

この後の議事の進行を会長にお願ひいたします。

## 2. 図書館年報について

(会長)

おはようございます。色々な立場からのご意見、今日も活発なご意見をお願いいたします。それでは、次第2の図書館年報について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料 平成30年版河内長野市図書館年報に基づき説明

(会長)

説明して頂きましたが、皆さん質問とかご意見はありませんか。気になるところがあれば発言してください。それでは、皆さん納得されたということで、次に移ります。

### 3. 図書館利用者アンケート結果について

(会長)

次第3の図書館利用者アンケート結果について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料 河内長野市立図書館アンケート集計結果に基づき説明

(会長)

事務局からの説明が終わりましたが、何か質問とかご意見ございますか。

(委員)

利用者アンケートで回答者が40から60代が多いが、来館者数から見た場合と同じなんですか。土日が多いというのは、リタイア世代が多い中で時間がゆったりあるのに土日の来館がなんで多いのかと思います。それと、よく利用されるコーナーで見ると実用書はいいんですが、新聞・雑誌の利用者が多いというのは、利用の仕方がよくわからない。今朝も外で見えても新聞を読んでいる人が多い。家で取っていないのか、近所の人が来て読まれているのかどうなのかと思います。それと、13番の図書の実用とか資料の実用とかは当たり前ですが、聞き方にもよりますが、何を充実してほしいのかというところが見えないとこれ以上前に進めない。漠然と図書の充実とか資料の実用を聞いても資料がある中でそれを聞いているのか、このへんが手薄で充実してほしいと聞いているのか。聞くときにアンケートの趣旨とかを表面だけ聞いていても毎年同じ形になるのではないか。このことが充実につながるのか気になりました。それと、満足度というところですが、これは書きにくい。どうしてもやや満足でとまってしまうので。取った方もそれをどう使うのか。利用者アンケートの中で満足度というのは取り方として難しい部分があるかなと思います。

(会長)

はい、どうぞ。

(委員)

アンケートの中に具体的な要望等とかあったのでしょうか。それはどのような内容があったの

ですか。具体的に何を充実してほしいのかコメント中に現れていないのか教えてほしい。

(会長)

それは、後で事務局にまとめて説明してもらいます。では、私の方からも少しお聞きしたい。

先ほども土日が多いとありましたが、夜間の利用が少ないですね。夜間がどれくらいの層が利用しているのか。パーセントと関係なく、例えば、働いている人が平日の夜間に利用しているとか、そうすると夜間開けるとかになるし、土日に利用者が多いといった場合に年齢層はどうかなど細かいところをついていくともっと浮かび上がってくるのかなと思います。一つ一つ切っていくと、うまく見えてこない。利用時間が30分とかが多いですね。雑誌の閲覧などであまり長時間いらっしやらないということなど、どういう資料がほしいか他から借りてきているとか結び付けていくとアンケートがおもしろい結果になるのでは。これは、私の意見ですが。材料はアンケートであると思います。横だけではなく縦ななめから見ると違ったものが出るのではと感じました。先ほど、仰っていました、退職者や時間のある人が多いのに土日の利用者が多いのはなぜか。これはどうでしょうか。

(事務局)

土日の利用者が多いというのは、お勤めの方が来てくださっているのだと思います。ご家族がおありの方とか親子で来てくださったりとかお勤めの方が多いと思われま。新聞・雑誌というのは、各紙が揃っているので着て頂いたら色々読めると人気となっています。図書の充実の中身では、自由意見としてあるのは、新刊書は月に1400冊程度入っているのですが、借りられると目立たない。新しい本をもっと入れてくださいというのが多いです。DVDもお金がかかるけれど入れてくださいとかあります。夜間の利用人数ですが、6時台の館内の滞在人数、7時台の滞在人数を毎日職員がカウントしていますが、学生や自習している方であったり、急いで返しに来られる方など6時台の方が多いのですが、100人前後滞在しておられて、7時台は減って70人前後のご利用をいただいているとなっています。

(会長)

6時台、7時台でどうなのかというと、利用する人は朝来て最後までいるのです。長時間いる人が多い、利用者が動く時間帯があって、7時ぐらゐがそうなんです。それ以降は人数が固まってしまう。開けば開けるほどいいという要求なのか、夜しか来れないとかその辺のところが開館時間に影響があるので、出入りが無いとかあるとか把握しておかれた方が良いでしょう。

(会長)

どうしてもという人には待ってもらおうとか。例えば、この分野が足りていますかとかお聞きになるのも方法かもしれません。後は、出版点数等の比較で分析するにしても、具体的にどの分野の本が足りないですかという項目を増やされると出てくるということがあるのではないかと。結局は、読物は新刊だけだったということがありうるかもしれませんが。気になったのは、事前に満足は満足でそれでいいんですが、大変不満とかあったので、人数が出ていたのでお答えの方は共通の方で限られてくる。何か以前にあったのかと思われま。参考までにお答えします。

(委員)

お聞きしたいのですが、VHSはどのくらいあるのですか。

(事務局)

ビデオテープですね。年報12ページのところで、2,350巻です。

(委員)

ちょっと思ったのは、新刊書もいいのですが、VHSが今はほとんど手に入らない、昔の映像が見たいとか、そのための図書館であっていいのかなと思います。置き場所的にも場所は取りましますけれど、DVDだったらまだありますけれど、VHSとかビデオの機械がほとんど無い家も多いので、昔のビデオを見たいと思った時に図書館に来れば見れると、そういう意味での所蔵とか特徴もあっていいのかなという気もするのですが。

(事務局)

音と映像コーナーのブースを撤去して閲覧席を増やそうという案ではあるのですが、ビデオテープも見られるデッキを一ヶ所だけは残して見て頂こうかという案になっています。

(委員)

これは、ここに置いてあるものしか見られないのですか。別の図書館にあるものを見ることができないのですか。

(事務局)

当図書館で所蔵しているものしか見られないです。

(会長)

今、どういう傾向にあるか把握はしていませんが、映像資料とかビデオとか点数が少ないので自分の図書館でも本は8冊貸してもビデオは4巻とか限られているのです。それからもう一つは、著作権の問題がありまして、普通は1,000円や2,000円とかで買っても実は1万円とかする、高い値段で買っているのですね。それは日本の図書館協会等が交渉して、要はレンタル業者とかで借りると商売が成り立つではないですか。図書館は無料で貸すとは著作権法の問題がありますので、貸していいですよと行って余分にお金を積んでいるのです。どうしても契約が出来ているところも少ないのです。何でもいいという事でもないのです。そういう条件があるうえに、ビデオとかは購入した図書館がその住民に貸すのはいいですが、図書館が図書館に貸すのはダメなのです。著作権法で出来ないのです。その昔は沢山あっても買ったこの中央館だけしか貸せないのが実態だったのですが、最近、自治体内の図書館は使ってもいいとなりましたが、よその図書館にビデオを貸出するのは著作権法の関係でできなかったのです。ビデオに関しては色々な条件があります。

(事務局)

ビデオ・DVDの状況ですが、河内長野市図書館は年間約100万冊ほど貸出しておりまして、住民一人当たり平均10冊以上借りておられる。日本の平均からして倍以上の貸出があります。本の貸出も十分原価割れになったほど読んでいただいて、使用に耐えられない本が廃棄されるわ

けですが、ビデオにつきましても収集はしていますが、先ほどの本と一緒に100回200回どころでないほど貸出しておりますので、もう使用できない状態のものが多くあります。テープを入れても取り出せない、デッキが悪いのかビデオが悪いのか、わからない状況になっているわけです。啓発的なビデオ等は一定の部分は残すとしても、映画とかビデオは貸出していくこと自体が利用者の迷惑になってしまう状況です。今後は申し訳ないのですが、ビデオが売っていない状況や今持っている物もボロボロになって使用できない状況になってきていますので、2,350巻あるとしても処分せざるを得ません。ある年度から所蔵数が100とか200とかになっていくことをご理解ください。

(会長)

何回以上とか利用でテープが伸びたりとか音がダメになったりとか、たしか数字があったと思います。ビデオは非売品の地味なものしか残らないと思います。他にご意見とか何かありませんか。ここがわからないとか、こうしたらいいのかとか、また来年もアンケートを取られるのですよね。来年アンケートを取られる時にこういう項目を入れたらどうですかとか、やり方も含めていい案がありましたらご提案いただけたらと思います。

(委員)

この資料自体もうどこかに配布されているということはないですか。

(事務局)

館内に貼り出し、またホームページにも載せていきます。

(委員)

修正とかはどうなりますか。

(会長)

まだ、出していないはずですが。ここで、検討をしていきます。その後、出されることになりません。

(委員)

先ほど言われてましたけれど、よく利用される時間帯とか午前・午後を集計されておられるのですが、例えば年齢層をここに入れていけば見やすいですし、誰がどのタイミングで利用されているのかというのもわかりやすくなるので、棒グラフでも基本的には二項目を入れ込んでやることも必要なので、そういったところも入れてもらった方がいいのかなという気がします。後は、4番目の質問、来館の手段とかどなたと来られましたかというのは聞いてどこかで反映されるのでしょうか。

(会長)

利用しようと思えば、例えば車で来られると思われる方に、BMが行っているかどうかとかその辺と掛け合わせる方法というのは、BMが行っていてもやはり来られるとしたらBMの回数が少ないのか、資料が思うようにいかないのかやはり本館に来られるのかその辺とつながると思わ

れます。

(委員)

アンケート自体、これ項目自体が必要なのかということをよく精査した方がいいかなという気がしました。7ページとかで充実度で満足、やや満足、どちらでもない、やや不満、大変不満という項目がありますけれども、これも何が充実した方がいいのでしょうかという項目に変えて、例えばシステマ的なところが充実した方がいいとかそういう項目を逆に出しておいてアンケート取った方がいいような気がします。職員の対応に関して、何が満足なのか何が不満なのかと云うところをアンケートで問うような形にしていった方がいいのかなと思います。アンケート自体は職員の方が作られているのですか。例えば、コンサルみたいなのところにみてもらってということはないのですか。集計自体も職員の方がされていると。あまりそういうエキスパートな方がおられないのですね。統計的な手法もこういう棒グラフに基本になってしまうのですね。

(会長)

これ要は、お金も何もアンケートのことで予算もついてなくてその中でやっていっているからどうしても、どこの図書館も横並びになる。変な言い方ですが、よそと同じだったら遜色ないし、非難されることはない。言い方は悪いですが、横並びで日本人でホッとするじゃないですか、よそと比べて落ちていないとか、どうしてもそうなるのですよ。ここがそうだとは言いませんが、私がいたところでもそうでした。だから、そういう意味での切り口ができるとか、手法がやはり足りないのだと思います。

(委員)

顧客を満足させようとするをやっぱり資料をどう充実させていくかというのを考えないといけないですね。それは、手法を丸めなくても、例えば層別にすることというのは、この時間帯に誰が利用されるかというのはおのずと出てくるのですよ。そこを考えてやっているかやっていないかだと思うのですね。誰に何を知らせたいかということですね。

(事務局)

男女別の人数とか1ページ目に書いてある部分とか見ると、50代60代の間で大きく男女の利用されるこのアンケート自体は、アンケートをする図書館の存在価値を知らせる、それは市の方に対して河内長野市内にある図書館が市民に対してどのような意味を持っているかを示していく。その面からいうと、働いておられた方がこれほど利用されている状況を見てもらう。色々財政事情が厳しい中で図書館は無料なんですね。今は、キックス自体が駐車料金は2時間まで無料となっています。市民の利用を担っている図書館の来館手段はここにありますように車が一番多いのです。ですから、そのために、今は、キックスの駐車料金は2時間無料が必要だと、そのためにもこれを資料として使いたいということもありまして、図書館の利用に影響がでることをこのアンケートを利用して市の当局にも見てもらいたいとも考えています。

(委員)

私はそれは違うと思うのですが、市に報告する為だけの資料であれば、顧客満足を満たせばそれはおのずとついてくると思うのです。より充実した資料を作っていけば、アンケートに対して

市民から顧客満足が得られれば、それなりの資料が出来ると思えば、それをもって市に報告が出来ると思えるのです。市に報告する為だけの資料であれば、私は、そんなアンケートをする必要はないと思います。顧客満足を上げるためにするということであればいいのですが。

(副会長)

アンケート自体は特定の目的だけではなく、図書館の立場としてみると、市としてのやりとりの中で意識してこれを活用したという一面もあります。幅広く如何に図書館に来てもらうという意味でとっていく。全体として顧客満足度が高くなることによって図書館が無くてはならない存在になっていく。市とのやり取りの中でアンケートは有効だと思います。

(事務局)

利用の方法のひとつとして言わせていただきました。

(委員)

アンケートでいうと、10代20代30代というところが少ないのですが、来館者も少ない。それを見て、前向きにその年代層を増やすということの資料としての何かアンケートがあれば、見えてくるのではないかなと思って。今、市がすごい高齢化が進んでいるので、もちろん利用者が高齢者になることも見えているし、余暇を過ごすという面で行くと高齢者の姿はすごくこのアンケートから見えてくるのですが、若者などの利用者の少ない層が全然見えないアンケートの結果になっているなと思います。この人たちは何曜日の何時頃にどのような利用しているかというのが見えるような項目があれば、そういう人たちを増やす資料にもなってくるし、10代20代30代の方が少ないですが、アンケートに答えてくれているので、そういうチャンスをもっと生かすようなアンケートの作り方に変えていった方が前向きになるし、若い世代がもっと図書館に行きたいなということが、口コミとかでどんどん広がっていく、SNSとかで発信されていくので、この図書館はこんなによいよというのはこの人たちが広げてくれると思うので。市の方も河内長野市の図書館は、若い世代がすごく活気のある図書館になっていっているし、また、定年後の方たちも余暇を利用するという形で利用しているという風になると図書館が輝いてくる。市としては、財政の面とかでいくと、所得税とかの事もありますし、若い人たちに沢山住んで頂きたいとかいう思いもあるし、相乗効果ではないんですが、生きてくる図書館であって欲しいと思うのですが。

(会長)

10代以下と書いてありますけれども、10代以下で小学校低学年の人では、アンケートはまず保護者が書くわけですね。若い人はなかなか答えてくれないからどうしても来ている人の中の回収率は高齢者が高くなっていく自然とね。親と一緒にないと来られないこともあり、親が答えていく。回収率も高齢者の人が高くなっていくと考えられます。遠方から一人で来られない、色々な要素が加味されるので、どう分析していいのかが難しいです。

(委員)

集計結果はこれだけですけれど、今言ったような事を調べられるのですね。横に申し刺しすると年齢別の項目を拾っていくときにサブ資料じゃないですけど、これはこれで大まかな結果とし



て出して、聞かれた時にそれはこう形になっていますという事が資料として持っておれば、内部点検はできるのかなという気はします。ここへ出してしまうと結構資料がすごい細かくなってしまふということになるので、集計結果はこれだけですけれども事務局の方で横の串刺したような資料をどれだけ持っているのかということに答えてとしては出てくると思うのです。

#### (事務局)

アンケート用紙は配っているけれども、書いてくださる方に高齢者が多いということがあるかと思えます。利用を増やす方策というのは、児童の担当ですとかヤングの担当ですとか色々おはなし会ですとかニュースを作ったりしております。また各学校と連携したりとか伝えております。貸出の状況を年齢別でみれば結果としては傾向とかわかるのではと思われまますが、これはあくまでもアンケートに答えてくださった方の集計となっております。参考につけさせて頂いております。

#### (委員)

学校と図書館とは繋がって連携してやって頂いております。学校は学校の中に図書館がありますのでそこを充実させるのが大事ですが、図書館から色々な資料を貸して頂いて、活用させて頂いております。一方で、委員が言われたように、ある意味での子育て世代の方に市の図書館の中身がこれだけ充実していることをもっとPRして知らせていくことが必要ではないかと思えます。子育て世代の方は共働きの方が多いので、なかなか普段図書館に来るとなかなかないだろうと思えます。せめて土日のどこかでお休みを取った時に子どもを連れて図書館に来るとか増やしていけばと思います。歴史的な音源があること、そういう提供が始まっていることを学校の先生もどれだけ知っているのか。意外と若い世代の先生が多いのですよ。学校現場では小・中学とかね。20代30代の若い先生方が多くて、情報を仕入れるときはすぐにパソコンやネットで探そうとされる。図書館に行けばこういうような資料があるんだと社会の授業とかで使えるのかもしれないなど、こういう情報とかあまり知らない。市の図書館にあるのだといういい意味でのPRをして頂いたらいいのかなと思えます。色々なことをやっておられると思うのですよ、ホームページとかでね。子育て世代の方々の家族に対してもそうだし、何かあればぜひそういう機会をさせて頂いて、違った形で増えるのかなと思えます。

#### (会長)

一点は、毎年同じような感じで全国平均の値ができるようなアンケートを続けるか、あるいはこの図書館独自で問題とか色々思うところがあったり、アンケート結果で見えるところがあったりしますと、それを全国平均ではなくて、ここの図書館の何らかの問題点とか利用者が思っている部分をうまくつかまえる、その辺を明らかにするような、大変難しいですが、網羅的ではなくて、一点に絞ってもいいですから、そういう風なやり方のアンケートの取り方もあると思うのです。その辺をもう少し、どの辺でというのを図書館の評価と一緒にですが、A評価を8割方いただきたいという形でやる方法なのか。それとも図書館として何かの問題点をキャッチして一歩でも前へ進めたいという、大変難しいです、難しいですが、そういう方法も検討するというのは必要かと思えます。そのために皆さんから色々意見頂いたりとか、お手伝い頂いたりとかそういうことができるので、こんなに意見がでましたので、いいのになと思うのです。

(事務局)

委員の方からもご指摘頂いたように、顧客満足度とかそういうところをつなげていくためのアンケートとか、クロス集計ですとか専門的な統計の取り方から問題・課題を抽出していく形をとっていくという事もございますので、市の方では年に1回色々な形の実態調査をするという事を総合政策部だったと思いますが、やっておりますので、それに図書館もエントリーしていくという事を合わせまして、ご指摘ございましたように、専門的な視点を入れたようなアンケート調査を取っていただけるように調整をしていきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。そういうのができればうれしいですね。なかなか図書館ではできないと思います。結局は平均的なところになるのです。その辺ができればと思います。

(事務局)

図書館でやるとしたら、来られている方に聞くという事になるのですが、広報等でやっているような市民意識調査でしたら、住んでいる方に対してしますので、来られない方にも聞くことになるので、取り上げてもらうように調整の方を検討させていただきます。

(会長)

選挙と一緒に自分が書いたアンケートの一票がどう反映されるのか。その反映がされると次につながっていく。入れたけれどどれだけ効果があったのかわからない。選挙と一緒にですね。自分の一票がどう反映されるのかわかると、その辺のところもうまくいくとうれしいですね。

(副会長)

考え方を変えないといかんとします。アンケートは色々な事を色々な機関がやるのですよ、実態を知るためにやるのですが、公的機関の場合はどうしても例えば満足度が高く出ようにしたとか、つまり自分たちが一種評価されているような意識があって、どうしてもまずいことを明らかにするような形にもっていかないのですけれども、しかし、改善をしようと思うと、問題点分かるような形でアンケートを取っていかないと何のためにアンケートを取っているのか分からない。満足度が高かったからという事で満足してしまう。そうではなくて、一つは実態を知るといふ事と、改善するために何が課題なのかという事を知らないと、せっかく行っているアンケート調査が生きてこないと思うのですね。これだって一緒だと思うのですね。だから、満足度が低ければ何しているのだという事になりがちなのだけれども、そこを管理者としては意識を変えて課題を見つけて、もっといい図書館にするにはどこをどうしたらもっと来館者が増えるんだとか、そういう視点からこういう類のものを取っていかないと、旧態依然で同じ事の繰り返しになってしまう可能性があると思うのですね。だから、今出た意見もそれぞれもっともなことで、アンケートというのは意識を変えて課題を見つける、そこを改善することによってもっと良くなる。そういう意識付けが必要だと思います。

(会長)

どこの図書館にも聞かせたい。はっきりわかるのですね、Aが欲しいのだと思う。Aが出てくるような設問に持っていく。どことも似たようなものです。革新的なものができるとうれしいで

すね。

他に何かありませんか。それでは次に移ります。

#### 4. 「図書館事業評価に係るお知らせ便」について

(会長)

それでは、次第4の「図書館事業評価に係るお知らせ便」について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

次第4の図書館事業評価に係るお知らせ便（平成30年10月）について説明。

(会長)

何かご質問とかありませんでしょうか。ご意見ありますか。あとで何かあればおっしゃってください。それでは次に移ります。

#### 5. 基本的運営の方針の改定について④（検討）

(会長)

次第5の基本的運営の方針の改定について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

次第5基本的な運営の方針の改定について④（検討）について資料の・第2期河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針（案）・第2期河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営方針（案）に基づく事業計画案・第2期事業評価数値目標（案）に沿って説明。

本日は、前回に引き続き基本的運営方針（案）について、議論いただいて、次回会議でご答申を頂きましたと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上で説明を終わります。

(会長)

ありがとうございました。今回、最後ということなので、皆さん気になるところとか質問とか提案とかよろしくお願いします。

(委員)

事業計画（案）の2ページ目上から3行目4行目のところで、ウ．学校等での本に親しむ機会の提供というところでえほんのひろば参加者数、うち異年齢交流参加者数と書いてあるのですが、それは数値目標として示すということなんでしょうか。

(事務局)

事業計画（案）では、指標を設けて数値的な評価をやっていきたいと思っております。

(委員)

えほんのひろばについてなんですけれども、私たちボランティアとして関わらせて頂いている

のですが、どんな風であったかということをも月1回の定例会で共有しております。その時に色々な意見が出て見えてきたことは、現在のえほんのひろばが質の担保がされないまま提供されているのではないかという不安です。具体的に申し上げますと、昨年度から図書館員さんはえほんのひろばの設営をなさって、一時間目だけは、司書さんがいらっしゃるのですけれども、その後は学校にお任せしますという事になったと思うのです。えほんのひろばの意図をきちんと理解してより良い運営をしてくださっている先生方がいらっしゃる一方で、図書館の方から運営マニュアルみたいなものを学校にお渡ししているのだと思うのですけれども、それを子どもたちの前でその場で初めて見ましたという感じで棒読みされる先生がいらっしゃったり、そんなプリントがあったんですかと言う先生がいらっしゃったり、ボランティアさんが来ているのだったらじゃお願いしますと丸投げされる先生があったりという状況があります。このような状況でえほんのひろばをただ回数、参加数だけを目標にしてやっていっていいのだろうかという不安が本当にあります。例えばの話なのですが、目的に合ったえほんのひろばの機会を子どもたちに提供するのであれば、やはり図書館員さんが居るのが最低条件じゃないかなと思うので、今、人数的な問題もあって、それが難しいのであれば、例えば一年生と六年生の異年齢交流のみをえほんのひろばとして行くと。そうすれば、すべての子どもたちが小学校の間に2回は必ずえほんのひろばを体験することができる、というようなやり方があってもいいのではないかと思います。それとも一つは、えほんのひろばが読書への入り口であるとしたら、その先のおはなし会であったり、朝読であったり、ブックトークであったりというものを、組み合わせた読書教育のモデルというようなものを、図書館とか教育委員会とかまたは、校長会とか皆さんで作っていただいて、学校に示すということができないものだろうかと思えます。というのは、英語であったり、道徳であったり新しいカリキュラムがどんどん増えていく中で、どうしても図書活動というのは軽く扱われているような気がします。私たちとしては、それこそが子どもたちの成長のために本当に大事なものだと思って活動をしているので、そういった読書教育のプログラムを示していただく事で大切さとかがもっと理解されたいなと言う風に考えております。

(会長)

ありがとうございます。なかなか勇気がいると思います。こういう声がありますので、話し合いをするときに学校の司書の方もですし、ボランティア、図書館も入ってうまく調整とかが色々出来たらいいなと思います。

(委員)

先生がお忙しいので読めない状態があったりとかしたと思うのですね。それはわかっているのですけれども。

(会長)

どっかに任せてしまえばいいわじゃなくて、関わるところで関わっていかないと、任せてしまえば興味なくなります。例え一個でも関わると自分が手を加えて差し伸べてやったところが身近になり関心に繋がりますので、何とか巻き込む方法を考えて頂いて、学校の校長先生もいらっしゃると思いますので、知恵がどうなのかわかりませんが、色々ご提案頂いて、どこが音頭を取るのか分からないのですけれども、ボランティアの人が音頭取りにくいですよ。それでも、どこかが音頭を取ってうまくやって頂いたらボランティア活動も長く続きます。

(委員)

今、ご意見頂いて学校の立場として考えますとなかなか厳しいご意見を頂いたという事で、確かに先生方によって対応が学校の中でも違うので、本校でもえほんのひろばをやって頂いているのですけれども。私かつて中学校の校長でおらせて頂いた時にですが、中学校に来て頂いて、あの当時スタートした直後に来て頂いて中学校で絵本というのがすごく新鮮で、子どもたちも絵本というのは小学校の低学年というイメージがあったのですが、いやいや違うなこんな絵本もあるのだとすごく感心して改めて感動しました。子どもたちも地べたに寝転んでもいい、どんな姿勢でもいいということで紹介して頂いた。実績を見たときに中学校ではあまり広がりがなく寂しいなという感じがします。ただその当時も思ったのは、色々な紹介して頂く専門の方が来て頂いたという事ですごく有難かった。今は、先ほど言って頂いたように、昨年度くらいから小学校で最初だけとはいう形で、後はどうしても各学校でしないといけない。どうしてもいざやるとなると温度差が出てきてしまうのかなと感じたところです。学校の中でも学校図書館司書の方もおられるし、そういう普段から読み聞かせは行っているし、ボランティアの方が来て頂いたりしているので丸投げではないのだけれど、一応担任の先生が後ろについて子どもたちの様子を見ながらやっているのですよね。学校も先生方は色々なカリキュラムもありますので、特に小学校の場合はすべての授業を殆ど担任がやっているのです、なかなか難しい分もあるのですが、そこはうまくどう噛み合わせていくか今後も話しをする機会があるかなと思います。

(会長)

たぶん、お互いに状況が見えていないので、先生もお忙しいのだろうと推測できるのですが、どのくらいお忙しいのかとかその辺が分からないし、先生もどこまで手を出していいのか分からないし、はっきり言うと一年に1回だとうろ覚えだったり、あちらこちらに行っていらっしゃるとハウツウが分かると、その辺のところどうまくコミュニケーションが事前にとれていたりすると違うのかなという印象を受けました。誰が音頭を取るという問題もありますね。

(事務局)

以前は、図書館の司書が必ず付いて行ってということ、どんどん広げて頂いたというところだったのですけれども。現場の先生にも手伝って頂いてという事で、初めての時は行きますという形に変えてきたという経緯がありますので、主催といいますか、担うものが広がることで取り組みも広がるといいなという風に思っております。また、内容によりましては、先生方も入れ替わっているという事でしたら、また、どこかの機会でお伝えできる事があればいいと思います。担い手を増やすという事で、子どもたちに一冊でも絵本が届くというそういう場や機会が確保出来るのではと、図書館だけでは難しくなってきたこともありまして、お願いしたような次第となっております。

(会長)

また状況が変わったりしているので、図書館が声をあげられるのが、一番コミュニケーションをとるにしてもやりやすいと思いますので、コミュニケーションが取れるような工夫をしていただけたら嬉しいです。ボランティアさんも長くやっていただきたいですし、嫌気がさしてしまうと、これは非常に残念なので、気持ちを保持して頂くために出来るところを図書館としてよろし

くお願いします。他に何かありませんか。

(委員)

最初の1ページの項目の市民との協働とかは流行なのでこういう表現なのが対等という感じでいいのかなと思うのですが、下から2つ目の自らの部分で、ここで「努めます」という表現は、意図として何かあるのですか。自分の事なのに、それを「努めます」となってくると何かトーンダウンするというか、他は全部「図ります」とか意思が出ているのに、ここだけ「努めます」としてしまうと、一番自分の立場のものなのにこんな漠然と、言い切らないとせつかく書いているのと思うのです。

(事務局)

「実施します」ということですね。

(委員)

それでいくと、中身の方で、一番下のコンプライアンスのところは、防犯講習等を実施しますとはっきりと言っているのに、その差は何なのかという風を感じたので。

(事務局)

ありがとうございます。

(委員)

もう一つ、図書館機能の充実を目的にというところの⑩ですね、ここで、「図書館の利用に困難がある市民に」という表現がじっくりこないのですが。他に言い方が浮かばないのですけれども。本来、その後続く「利用しやすい環境づくりを進めます」ところになってくるので、前の言葉が「利用に困難がある」表現がどうかと思うのです。

(会長)

たぶん、図書館としては障がい者サービスという言い方が早く通じるかと思うのですが、本当は障がい者サービスもいいのだろうと感じます。要は一般の利用者と比べて図書館の利用に助けがいたりとか、工夫がいたりとかここでは「利用が困難」と書いてあります。そのままでは困難なので、例えば、文字資料を音声化するとか、そういう何かどういう言葉がいいのですかね、そういう人に対するという意味なのですから。通じるのは障がい者サービスなのですから、短くていいのですけれども、本来はあらゆる人にサービスする訳ですから、工夫がいたりとか、どのような言葉がいいのわからないのですが、どうですかもっといい言葉ないですか。

(委員)

あらゆるとかすべてのとかどの方でも利用しやすいとか書いておいて下に具体的な内容があれば、意図が分かるわけですね。

(会長)

本来、皆さん来てくださると利用できる資料を提供しないといけないのでね。

(事務局)

誰もが利用しやすいという事ですね。

(会長)

下に説明があるから判りますよね。他に何かありますか。

(委員)

事業評価なのですからけれども、いいですか。

(会長)

はい、どうぞ。

(委員)

先ほどアンケートでも出ていたのですが、10歳以下がアンケートではあまり出ていないので、でも、目標の中には3番目ですか、0～18歳の図書館登録者率を増やしていきましょうという試みがあるので、そこら辺アンケート、根本ですけれども、どうしたら10歳以下に利用して頂けるかというところはもっと掘り下げてやっていく必要があるのかなと思いました。後、5年後の目標であったりとか3年後5年後の目標が書かれているのですが、例えば、蔵書整備冊数で28年度14,166冊、29年度14,055冊と14,000冊を超えているのに、14,000冊が目標というのは努力目標が全く無いような感じがしていかげんなのかなという思いがあって、例えばそれが14,200冊でいいじゃないですか。何らかの努力目標を入れ込む必要があると私は思ったので。後、下から2番目学校との連携のところで、図書館から小中学校への団体貸出冊数が7,000冊を超えているのに、3年後5年後は減ってしまっているのは何でここまで数字が下がってしまうのは分からない。努力目標があまり見られないのかなという数字目標になってしまっているもので、やはり先ほどお話していた顧客満足を満たしていけばおのずと努力目標は達成していけると思うので、そういう目標にしてほしいなという思いがあります。

(事務局)

前提となります人口は毎年1,000人ほど減っていく。そして高齢者の方65歳以上の方は35,000人位で変わらない。生産年齢人口は60,000人位のところが、45,000人と減っていくという人口推計もございますし、そうすると下の方にあります資料費ですとか開館日数ですとか司書の確保ですとかそういった前提の条件が毎年予算の削減を求められますので、厳しい状況がここ数年あります。数字については、現状維持であってもそれは前提が厳しくなる分、努力目標になるのではとそういう案となっております。学校との連携の部分は、実数に合わせて検討させていただきたいと思います。

(会長)

蔵書整備冊数は、この表ではわかりやすいですけど、1年間の受け入れ冊数ですよ。そうすると予算とか寄贈はある程度限りがあるので、そんなに膨らんでいかない。大体似たような数字で横ばいになると思うのですが、整備とか装備とか図書館用語を使うと、パッと見たときに一

瞬何だろうと、人によっては蔵書冊数かなと思ったりする部分もあるので、パッと見てわかりやすい言葉に変えられたほうがいいのかと思いました。減っていますけれど、実際にその年になってみないと予算上本の値段が上がっていくので、冊数は同じ予算だと減っていく、図書館は5%のシーリングがかかってきますよね。資料費は下げないようにしてらっしゃるのだと思うのですが、なかなか増やしていくのは難しいですよね。そうしますと寄贈を増やしていくしかしょうがないのです。あまりこの数を増やすと受け入れなくていい本を受け入れたりという事に成りかねないと思います。

(委員)

実数にしているので基本的には努力目標を感じられないのですよね。パーセンテージにするとか、そういったところにしないとそれが見えてこないのですね。

(会長)

数字、数字というからつつい出してしまうのだけれど、予算が減っていく中で冊数が増えていくというのはあり得ないという実態もありますので、その辺の場合、表し方が無いものですかね。

(委員)

その辺は図書館で決めたらいいと思うのです。例えば、冊数は人口で割ったりするか色々方法はあると思うのですよ。

(委員)

学校等の連携の部分も児童・生徒数が減っていくという事の中での冊数を減らしているという事なのですか。今後先々に、児童数が減っていくという事なのですか。

(事務局)

それは、クラス数の変更とかそういうのが影響があると思います。

(委員)

そこら辺も、もしかすると実際にはクラス数とか児童・生徒数が減っていても利用率とかそんな形で表現できればと思います。そういう方法があれば、児童・生徒数が減ってきているからこうなるのかなと思います。冊数だけだと下がっていると見えてしまうのですね。

(委員)

あまり意味がないですよね。今みたいに冊数だけでやってしまうと全然その辺が見えてこない。反対に子どもが減っても蔵書を増やしても問題が無いですよね。意図としてですよ、こちらの立場として、学校にもっと本を送りたいのだったらもっと目標を上げていかないと、それは子どもが減るとか関係なしに、学校での図書を充実するというが目標なのか。反対に子どもの読んでもらえる率を上げるのだったら本が減っても読む率ですから、ずっと繋がっていく評価になると思います。



(事務局)

そうですね。生徒一人当たりへの貸出冊数であれば、生徒が減ってもわかりやすいですね。

(会長)

郵送貸出件数と書いてありますが、送料は図書館持ちですか。片道ですね。

(事務局)

視覚障がい者向けの郵送貸出なので郵便料金が無料となっています。

(会長)

録音図書とかで墨字を借りたいという方はあまりおられませんか。  
視覚障がい者が利用者ですね。

(事務局)

今のところ墨字の郵送貸出はありません。  
参考に付けております指標の方は精査して参りたいと思います。

(会長)

それでは、今日、出たご意見も参考にして頂いてお願いします。他には何かありますか。

(副会長)

この運営方針は5年に1回ずつ改定するということですね。

(事務局)

そうなっております。

(副会長)

今回の改訂は特に何かあるから改訂ではなくて、5年の見直しに合わせて改訂という事ですね。そしたら、改訂する以上は、先ほどのアンケートにも関わってきますけれど、どういう状況で何が課題でという事を意識してそれに合わせて運営方針を改訂していく。その時に人口が減っていると予算の制約が非常に厳しくなってきたりとか、色々な条件を考えて、その中で向こう5年間はこうしましょうとそういうのがどこかで必要ですね。だからアンケートはアンケートで別でという事ではなくて、やった5年間のアンケートの結果、どういうところに何が課題なのかを意識しながら、向こう5年間の間は運営の結果を踏まえて、今度こうしますという形で繋げていくようなそういうことを意識しないと、それぞれが単発でその都度その都度という事になってしまう可能性があるから、アンケート調査なんかも今度5年後に改訂するという事であるならば、この5年間の間に色々やってみて課題を浮き彫りにして、それを5年間の間どう良くなるようにするにはどう運営方針を変えていったらいいのか。そういう形で繋げるような形で、結果を踏まえて次はこうしましょうと意識してやっていく必要があると思いますね。そうでないと5年が来ましたからやりますと言うだけでは、じゃあ何が課題だったかなという事に成るし、それから市の置かれている状況は先ほど事務局が仰ったように、市の方から厳しい要求が出ていると思

いますね。それが一層もっと厳しくなる可能性がある訳で、そういう厳しい状況の中で向こう5年間はこういう風にやっていく、そういうのを踏まえて考えていかななくてはならない。いい機会です。そういう市の要求に対して我々の協議会としては、これは市のものとして管理者に任せるのではなくて、我々がやっていくという事を意識して、そのためにはどうしたらいいのかということを決めるのがいいのではないかと。そういう事を意識して、何が課題でという事と市の要望、置かれている状況を考えたうえで決めていかないと、ただ字句の表現を変えるとただでは済まなくなってくるのです。今回はそんなに準備出来ないと思いますが、そういう事を踏まえて5年間の総括の結果を次に反映させていく、そういう形で繋げていくようにしたら少しずつでも前進する、改善する、いい方向に進むのではないかと思います。

(会長)

万遍なく上げることはなかなか難しいと思うのです。弱いところにポイントを当てて、すごく上がるのと、上がってないからと言って目標にやらない訳ではないですから、基本的なところは全部やったうえで、尚且つ強調するところをうまく取り込めれば良いと思うのです。他にご意見はありますか。よろしいですか。

それでは、皆様ありがとうございます。きちっとチェックしていただき、ご意見色々いただきまして本当にありがとうございます。

(事務局)

それでは、運営方針につきましては、「努めます」というところでご指摘頂きましたので、そこを変更いたしまして、答申を頂くということでよろしいでしょうか。

(会長)

皆様、ご苦労様でした。次回も是非活発なご意見をよろしく願いいたします。それでは、今後の予定をお願いします。

(事務局)

今後の予定という事ですが、本日のご意見を元に運営方針の改訂についての答申を2月23日土曜日に頂く予定となっております。この部分についてという事で、研修のところとか修正をさせて頂いて次回答申という事でお願いしたいと思います。また、次回もご出席の方、皆様ご予定よろしく願いいたします。

(会長)

以上をもちまして、平成30年度第2回河内長野市図書館協議会を閉会します。

以上